

**宮城県での東日本大震災緊急復興支援活動について**  
公益財団法人 日本ユニセフ協会

日本ユニセフ協会は2011年3月11日の東日本大震災を受け、約50年ぶりに日本国内での支援活動に取り組む事を決定、即時、国内外で基金活動をすると共に、被災地での、特に子ども支援及び子育て支援を中心とした緊急支援を開始。

2012年度以降は、心理社会的支援、子どもの保護、子どもにやさしい復興計画を中心に活動を実施中。

### 1 緊急支援物資の配布

内容	詳細	対象地域	実施期間
緊急支援物資の配布	水、食料、物資、「路の中の幼稚園」「レクリエーションキット」などを被災各地の避難所へ支援。生活協同組合や現地市民団体の協力により、被災地まで物資を運ぶトラックや物流拠点となる倉庫の確保ができた。	石巻市、仙台市、大崎市、登米市、栗原市、気仙沼市、名取市、多賀城市、塩竈市、宮谷町、岩沼市、東松島市、鹿田町、白石市、亶理町、利府町、角田市、加美市、美星町、大和町、大河原町、七ヶ浜町、涌谷町、南三陸町、山元町、丸森町、松島町、蔵王町、村田町、女川町、川崎町、大郷町、色麻町、大衡村、七ヶ宿町	2011年3月-5月

### 2 保健保養

内容	詳細	対象地域	実施期間
備品/設備支援	乳幼児健診、予防接種等の母子保健サービスの再開を目的とした保健センター等への備品調達や設備整備、移動手段(例:乳幼児健診用身長計・体重計、原付バイク)、情報周知、保健推進活動の支援実施	石巻市、亶理町、塩竈市、多賀城市、南三陸町、気仙沼市、岩沼市、登米市、女川町、村田町、名取市、東松島市	2011年4月~12月
産婦人科医師派遣	日本プライマリケア連合学会との連携により、被災した産婦人科へ医師を派遣	石巻地区	2011年6月~10月
学校給食再開支援	宮城県女川町での学校給食施設支援 石巻市の小中学校全校への給食食器1万5,000個と給食センター設備支援	女川町 石巻市	2011年8月 2012年4月
保健センター支援	南三陸町保健センター建設支援	南三陸町	2012年3月完成
インフルエンザ予防接種助成	中学生以下のインフルエンザ予防接種に対して、一本につき上限2,000円の助成、13歳未満の接種は2回なので、一人につき上限4,000円	石巻市、気仙沼市、南三陸町、東松島市、女川町、亶理町、山元町	2011年度冬期・2012年度冬期

## 3 教育

## 1) 保育所等や未就学児への支援

内容	詳細	対象地域	実施期間
備品/設備支援	保育所や子育て支援センター等の再開のために必要な備品の調達や保育設備整備の支援を実施。延べ34施設、2,214名の園児を支援	被災した沿岸市町村	2011年3月～12月
園舎建設・修繕支援	気仙沼市: マザーズホーム、牧沢きぼう保育所、葦の芽子育て支援センター、気仙沼小学校学童 南三陸町: あさひ幼稚園 石巻市: ひまわり保育園、牡鹿地区保育所、井内保育園、 亶理町: 亶理町児童福祉施設/山元町: ふじ幼稚園	石巻市、気仙沼市、南三陸町、亶理町、山元町	2011年4月～2012年12月

## 2) 学校や児童生徒への支援

内容	詳細	対象地域	実施期間
バックトウスクール(BTS)キャンペーン	教育委員会、学校生協と協力し、被災地の児童生徒、約8,000人への文房具セットや学用品、被災した小中学校への備品、及び内陸へ転出した児童生徒への学用品支援	被災地全域及びその他内陸へ転出した被災生徒児童	2011年4月～5月
備品/設備支援	被災した小中学校や教育委員会等への学校教育再開に際して必要な備品の調達、学校設備整備への支援	宮城県沿岸部全域	2011年3月～2012年4月
中高総体参加支援	被災地からの生徒の中高総体への参加を支援(参加費・交通費、宿泊費等)(県高総体、県中総体)	被災した沿岸市町村	2011年5月～2012年1月
体育着・体育備品支援	2012年度新入学児童への体育着支援、被災が大きかった沿岸地域への体育用具支援	体育着: 被災した新入学児童生徒 体育用具: 石巻市、亶理町、名取市	2012年3～4月
図書配布/図書館支援	ちっちゃな図書館プロジェクト・女川ちゃっこい絵本館・名取市図書館どんぐり図書室・女川トレーラーハウス(学童としても利用)被災して本がなくなってしまった学校や保育所、個人の被災者の方々に絵本や児童書をミニ図書館セットとして配布	女川町、名取市ほか宮城県沿岸部全域	2011年3月～

## 4 心理社会的支援

内容	詳細	対象地域	実施期間
子どもに優しい空間	震災後すぐに、宮城県内の12の避難所に子どもに優しい空間を設置(子どもの遊び場作り)	石巻市、東松島市	2011年3月～5月
心のケア研修及びフィードバック	日本プレイセラピー協会と連携し、『プレイセラピー的子どもとの関わり方の研修』を43カ所で開催。1,075名の保育士や保護者、子育て支援センタースタッフ、関連行政職員、児童民生委員等が参加	石巻市、仙台市、山元町、亶理町、名取市、気仙沼市、女川市、塩竈市	2011年4月～



	要請のあった個別の園に対するサポート、保護者、保育士の心理相談、個別ケースの親子のプレイセラピー	山元町	2011年10月～
心のケア資料作成	子どもの心のケア冊子配布(一般向け) 遊びを通じた子どもの心の安心サポート・マニュアルの配布	宮城県県庁、石巻市、仙台市、山元町、気仙沼市	2012年3月～
心のケア(親子遊び)	日本プレイセラピー協会と共同で、親子遊びの場に参加し、子どもの心のケアにつながる遊びを紹介し、親子の心のケアを実施	石巻市、仙台市、気仙沼市など	2011年10月～
折り紙のツリープロジェクト	全国のアーティストや美大生/電通/情報堂/KEAなどの協力によりボランティアと一緒にオーナメントを作りツリーを飾るイベントを実施	石巻市、仙台市、気仙沼市	2011年12月/2012年12月
EYE SEE プロジェクト	プロのカメラマンによるワークショップを受講し、カメラのレンズを通して、今のまちを子どもの目線で捉える	石巻市	2011年11月

## 5 子どもの保護

内容	詳細	対象地域	実施期間
東部児童相談所への物資支援	被災した東部児童相談所(石巻)へおもちゃやコンピュータなどを支援	石巻市	2011年7月
災害孤児の代替的養護アドボカシー	国際スタンダードに基づく被災孤児に対する代替的養護を訴えるアドボカシー(提言)、国会議員との家見交換会、シンポジウムなどの実施	被災地全域および全国	2011年3月
災害ボランティアへの子どもの保護に関する周知活動	各被災市町村の災害ボランティアセンターを通して「子どもの保護と安全確保の気仙沼市への子どもの保護に関する周知活動のための行動規範」の周知を実施	石巻市、南三陸町、気仙沼市	2011年5月～8月
子どもの暴力防止(CAP)ワークショップ実施	J-CAPTA、CAP みやぎ、CAP の会と連携し、子どもたちが暴力から身を守るためのワークショップを仙台市で開催実施するスペシャリストを県内で約30名養成(他、岩手県、福島県でも実施)、被災自治体で地域や幼保連携、保育園、小学校などでのCAPワークショップを実施(2011年から2013年3月までに2889人の子どもと1,816人のおとなが宮城県内で参加)	石巻市、仙台市、気仙沼市、岩沼市など被災した沿岸地域全域	2011年10月～

父子家庭・父親支援	保育士・民生児童委員、学童指導員などへ「お父さん支援員のための研修」を実施。地域で父子参加イベントなどを開催。被災父子家庭および被災地の父親が抱える復興ストレスへの支援を強化。県内で307名が研修を受講。200名以上の父子がイベントに参加。父子家庭向けのガイドブックやサポートファイルを作成し、お父さん支援員が働くバスステーションで配布・展示した。 (詳細: <a href="http://oon.niza-kaft.com/unicef/unicef_main.html">http://oon.niza-kaft.com/unicef/unicef_main.html</a> )	石巻市、仙台市	2011年9月ー
放課後の子ども見守り事業への支援	南三陸町教育委員会からの要請で、戸倉小学校(古津川小学校内)の放課後子ども見守り事業を支援。<NPO法人キッズドアとの連携事業>	南三陸町	2012年4月ー 2013年3月 (2013年4月から は行政による放課 後子ども教室事業 として実施)
学童保育指導員研修	気仙沼市からの要請で、気仙沼市内の学童保育指導員研修への支援を実施予定	気仙沼市	2013年6月ー

## 8 子どもにやさしい復興計画

校庭への夜間照明設置	グラウンドが濡され、日没後の練習ができなくなってしまった(遠くのグラウンドまで行かなければならずスポーツをあきらめる子どもがでてきた)ことから、被災しなかった小学校のグラウンドに夜間照明を設置(今後着工予定)	南三陸町	2013年6月ー
子どもにやさしい復興計画	復興計画の中に子どもたちの声が積極的に取り入れられるよう、また復興に向けたまちづくり子どもたちも参画できるよう、アドボカシーおよび技術的支援を実施。大学、学会、企業などの専門家の方とともに活動。  石巻市では、「子どものまちいしのまき」を2012年10月に実施。2013年にも継続実施予定。 仙台市では、「七郷小学校みらいのまちづくり学習」未来の町を模型を使って考えるワークショップ開催  その他、黒山プレーパーク事業として、子どもたちの遊び場・居場所の創出についても今後活動展開予定	石巻市、仙台市	2012年4月ー



## 宮城県子ども支援に関する提言

日本ユニセフ協会支援事業を通じた被災地域の課題から

## 【社会的養護】

- (孤児支援) 宮城県の震災孤児は135名(岩手県94名、福島県24名)。震災孤児のうち2名は施設、多くは親族里親への引き取り。親族自身も被災者であったり、高齢の祖父母であったり。親子への支援との差に困惑する親族も。
  - 里親に委託されたから安心ではなく、継続的な支援が必要。里親のレスパイト、親子同士のつながり作りなど。
- (遺児支援・父子家庭) 宮城県の震災遺児は902名(岩手県482名、福島県151名)。児童相談所は孤児対応に追われ、遺児については市町行政の手が回っていない状況。岩手県では、「被災遺児家庭支援専門員」を沿岸に6名雇用し、被災ひとり親家庭への支援を重点的に行っている。遺児家庭の中でも半数弱を占める父子家庭は家事・育児を主に担ってきた母親を失い、適切な支援や保護も届きにくい状況。従来のひとり親支援が母子家庭重視の傾向にあったことも要因。
  - 父子家庭への支援や父子家庭支援者への支援が大切。市町村の児童家庭相談員などがいつでも相談に対応できるような体制作りやアウトリーチの支援が大切。

## 【暴力からの保護】

- (児童虐待・DVなど子どもへのあらゆる暴力からの保護) 震災による生活の変化、家庭生活も地域社会も不安定になりがちな状況で、家庭内でのDVや児童虐待、保護者の多忙な状況や預け先のないことから起きるネグレクトなどのリスクの高まり。
  - 虐待を予防できるような体制作りや子ども同士のいじめなどのあらゆる暴力を防止するようなCAPワークショップの幼保小中学校や地域での実施が効果を高める。啓発活動の継続・情報提供や集会なども大切。

## 【心理社会的ケア】

- 震災3年目に入り、震災そのものの影響だけでなく、震災前や震災後の家庭状況、子どもや親に支援的環境があるかなどによって、元気になっていく子とそうでない子との差が出て来ている。
  - 多様な分野が情報・意見交換を行いながらの長期的/継続的な支援が必要。
- 復興や住民への支援を担う行政担当者、保育士や学童指導員など子ども支援者や施設の相談員等の疲労が顕著。
  - 支援者への心理ケア、支援者のレスパイトが必要。保育士などの加配措置などを検討する必要あり。
- 孤立化しがちな家族が心配。また、震災後の保護者の仕事状況や生活環境の変化によって、通勤時間や勤務時間が増え、親の時間と気持ちの余裕が震災以降なくなった家庭もある。
  - 子どもの心理的リスク軽減のためには、親子で一緒に良い関わりができるような時間、特に親子で遊ぶことなどを促進することが必要。





J-CAPTA&日本ユニセフ協会連携事業

キャップ

# 子どもたちにCAPを プレゼントしませんか

CAPワークショップの**無料**提供 **募集中**

実施期間 2013年4月～2014年3月 ●お問い合わせ・お申し込みは下記CAPグループまで



CAPとは子ども自身があらゆる難力から自分の心と身を守る教育プログラムです。子どもたちには自分の大切さと難力から身を守る具体的な方法を教え、おとなの皆さんには子どもの持つ力を信じ、子どもの心の平穏の方法をお伝えします。

CAPは20年余の歴史を持つプログラムです。地域や子どもたちの抱える不安を、勇気に換えていくのが高く評価されてきました。劇変を遂げたのわかりやすい内容です。

## 不安を勇気に転ずるCAPのちから～JCAP311Project～

J-CAPTAはCAP活動を通して子どもの生きる力を支える震災支援プロジェクトを実施しています。岩手県・宮城県・福島県のCAPワークショップは無料です。地域の保育園・幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、児童養護施設からのお申し込みをお待ちしています。

JCAP311Projectでお届けしたCAPワークショップは2013年3月末現在、ワークショップ数376回、参加者おとな4,475人、子ども3,745人になりました。

●CAPプログラムは地域のCAPグループがお届けしています。お問い合わせはお近くのCAPグループまで。

### 岩手県

●CAP岩手 岩手県盛岡市 ☎080-3190-1132

●CAPリアス準備会 岩手県刈岸部 ☎011-666-8517 (J-CAPTA事務局)

### 宮城県

●CAPみやぎ 宮城県仙台市 ☎070-5017-4388

●「こどものおんしん・じしん・じゆう」を考えるCAPの会 宮城県仙台市 ☎022-378-1060

●CAP伊勢 宮城県栗川郡宮谷町 ☎070-6851-0440

### 福島県

●こどもCAPふくしま 福島県伊達市 ☎024-584-3126

●CAPこおりやま 福島県郡山市 ☎024-931-8089

●あいづCAP 福島県南会方町 ☎080-1842-0160

●CAPいわき 福島県いわき市 ☎0246-52-0511



# Child Assault Prevention

CAPプログラム  
って？

CAPとは Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の漢文字をとったもので、子どもたちがいじめ、脅迫、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。

子どもを対象にしたプログラム(子どもワークショップ)では、就学前、小学生、中学生、障がいのある子、児童養護施設の子どもたちにそれぞれ発達段階にあわしい寸劇、歌、人形劇、討論などを盛り込んで、子どもを怖がらせることなく暴力防止の具体的な対処法を教えます。従来の「～してはいけません」式の忠告回答の方法とは根本的に異なり、「～することができるよ」と自分を守るための行動の選択教を促し、練習します。安心、自信、目的の達成を子どもたちにくら返し伝えることで、全ての子どもたちが本来持っている「生きる力」を引き出すプログラムです。学校や保育園・幼稚園をコーステーションとして、子ども・教職員・保護者にワークショップを提供します。

## CAPプログラムの3つのワークショップ

- 教職員ワークショップ 以上をまっすぐに、あともワークショップという
- 保護者ワークショップ

●あともワークショップはさまざまな場を背景に家庭でも実施できます。

## ●子どもワークショップ (年齢別3つのプログラム)

- 3歳児から5歳児のプログラム
- 6歳児から7歳児のプログラム
- 8歳児から12歳児のプログラム
- 障がいのある子どもへのCAPプログラム
- CAPで児童養護施設へのプログラム
- 子どもワークショップは年齢別3種類があります。

**CAP  
ワークショップを  
受けて…**

**Success  
Story** サクセスストーリー

ほくにも安心・自信・自由がけりがあるなとほくは感動しました。嬉しい気持ちやつらい気持ちになるのはこの3つのけんりがこれだけ、ほくは知っているからなんだと受けました。これ3つのけんりを大切にしたい、ほくたちの気持ちを大切にしたいです。  
(小学生)

千かんが出たときCAPを受けたとありにみんな違って話してあんなに話したよ。  
(小学生)

中学生のほくが学校から帰る途中男に声をかけられ声をかけられた。「やめてください」と言っても手を離してくれないので、大声で叫び逃げたことで済んだ。ほくは相談センターを受けたようです。「大声で叫ぶのがおどろかしたね」と言われて、「小学校3年生の時に受けたCAPの事を思い出して声が出た」といふ。ほくもCAPを受けた子どもと一緒に練習していました。不幸な情報があるだけにそのことを話したことがうれしかったようです。  
(保護者)

私は今まで自分の悩みを人に相談することができませんでした。でもほくも相談したら話を広められたという気がしたから、学校CAPに参加してほくがあったら相談した方がいかにいいことがわかった。ほくたちに相談したらアドバイスをもらうことができました。そして大人も自分の悩みを話すようになってきました。  
(中学生)

ほくは、5年生の時から心に悩んでいました。今、日本中でいじめによる自殺が続いています。同じ人間として受けたいと思いました。ほくは日本やの子どもにCAPが重要だと思っています。なぜかというCAPはいじめや暴力のことについて正しく話してくれ、人権のことも話すと、心に悩んでいる人は勇気が湧き、いじめられている人も気づくと思うからです。  
(小学生)

クラスの生徒たちが自分たちが問題を解決しようと考え行動するようになっていくのを、ほくはうれしく思っています。  
(小学校教員)

**J-CAPTA** ジェイキャプタ

一般社団法人 J-CAPTA (Japan CAP Training & Action) は、子どもの人権尊重とエンパワメントを目的として活動しているCAPトレーニングセンターです。

<http://j-capta.org/>

**unicef**

国際連合世界児童基金は、世界最大規模の人道支援で、子どもたちの安全な生活、心身の健康、発達を促す支援活動を行っています。

<http://www.unicef.or.jp/>



# 震災から2年半が経過して 子どもを取り巻く現状と課題 —小中高生の子ども支援活動の現場(被災沿岸部)から—

2013.06.27

特定非営利活動法人キッズドア

## 課題

- **生活インフラ及び学習環境が未整備**  
特に、全国と競わなければならない高校生には、過酷な環境 ※地元市町又は県外転出の原因
- **不透明な将来キャリア**  
(農漁業を起点とした2次・3次産業の喪失・経営不振)
- **不登校の長期化**  
(生活環境変化や家庭内不和による)
- **運動能力の低下**  
(バスでの登下校と遊び場の激減による)
- **自治体の子どもに係る人員不足、  
仙台市(政令市)と他の市町、  
被災度合による市町間格差**  
※市町内の地区別の格差を含む

## 対応案

- **学校内または地域の放課後学習会を  
各地域のNPO等へ委託**  
※例: 志津川高校での標準学力調査(CRT)2013の結果、  
放課後学習会を実施していた南三陸町立戸倉中学校卒の  
生徒が成績上位を占めた。学習習慣と自信がついた。
- **生活インフラ等の整備または金銭的補助**  
※スクールバスの細かな運用と予算確保 (平成26年度までは  
スクールバスの予算がついているが、27年度以降は不明)  
※就学援助 被災者枠がいつまで続くのか見通しが立っていない  
見えていないので、先が分からないと準備できない
- **産業再生・振興及び子どもたちの関与**  
※力のあるコーディネーターを派遣し、地元での職業教育や  
生き抜く力の育成(志教育)に関連させて実施
- **仮設運動場の早期改修または設置**  
※仮設住宅がある校庭には、ポール除けの高いネットを設置  
して、ポール遊びも可能にする。空き地に運動場を増設する。
- **教育、福祉、産業、復興計画の各部局  
の連携促進**  
※「力のある」コーディネーターを配置する  
※コーディネーター役として民間コンサルタント、又は、  
NPO等に委託する (中間支援NPOに委託しては効果なし)